No.44

東京農業大学「食と農」の博物館

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀2-4-28 TEL.03-5477-4033 FAX.03-3439-6528

開館時間 午前10時~午後5時(4月~11月) 午前10時~午後4時30分(12月~3月)

月曜日(月曜が祝日の場合は火曜)・毎月最終火曜日 大学が定めた日(臨時休業がありますのでご注意ください)

展示期間

2009.10.17~2010.3.21

多摩川原流大学展

展示案内



近年、食や健康などへの関心が高まる中で、 それを享受できる地域への関心も高まってき ています。それは、現代社会が抱える問題や諸 矛盾からの脱出であり、安全な食や健康的な生 活に対する欲求の高まりといえます。こうした 中で、農山村の重要性が再認識される時代とな りました。しかし、実際に農山村を訪ねてみる と過疎・少子高齢化、担い手不足など社会経済 的に様々な問題を抱えています。

「食と農」の博物館

そこで、東京農大では2006年度から文部科学 省の現代GPの採択を受け、多摩川の源流域で ある山梨県小菅村と提携し「多摩川源流大学」 という実践教育プログラムを進めてきました。 このプログラムは、教科書だけでは学べない多 くのことを源流で体験し、源流に学ぶという実 践教育が行えるようになっています。また、多

くの学生達が源流域を訪れることによって、地 域が抱える問題を地域と共に考え、行動できる 人材の育成を目的としています。

源流域には昔から培われてきた「知恵・技術」 がたくさんあります。これらは都市生活では失 われたものが多く、都市に住む私達の生活に大 いに役立つものです。そればかりか、源流域の 生活や営みあるいは生業は中流域、下流域の生 活と密接につながっており、それゆえに源流域 の課題は、決して他人事ではありません。

多くの方に源流域の実態や役割そして価値 を理解していただくために、また、源流域から 下流域へ、下流域から源流域へ知識や技術、人 と人との交流・連携が発展することを目的とし て、源流大学展を開催いたします。

(東京農業大学森林総合科学科教授 宮林茂幸)

- ■急峻な山に囲まれた小菅村(橋立、田元川池)
- ■自然と調和した人間の住まい(長作)
- ■冬の雄滝の景色。勇壮な原生林が広がり、自然 の尊さを感じることが出来る
- ■重要文化財に指定されている「長作観音堂」

小菅村の概要

山梨県小菅村には美しい自然と、そこに住まう 暖かな人々がいます。今回の展示では、源流大学が フィールドとして訪れている「小菅村」を紹介して います。

山梨県小菅村は東京都・神奈川県を流れる多摩川の源流部に位置し、奥多摩町に接する人口およそ850名の山村です。急峻な地形のため耕地が少ない村内には、橋立、川池、田元、中組、小永田、白沢、東部、長作の8つの集落があります。また、橋立から東部までの7集落は多摩川水系で、長作は相模川水系となっています。小菅村を東西に横切る小菅川の源頭は、大菩薩の妙見の頭(1975 m)で、周囲を2000 m級の山々に囲まれた流域をもち、村の東端で奥多摩湖に流れ込み以降多摩川となり約138 k m流れて東京湾に注ぎます。

都心から80 k m圏内にありながら、ミズナラやブナ、シオジなどの原生林が存在し、その豊かな森林には、ツキノワグマやニホンジカなど大型哺乳類が生息しています。また、天然記念物に指定されているニホンカモシカやヤマネ、ヤマセミ、クマタカなどの野鳥、カタクリ、ヤナギランなどの数多くの山野草も自生し四季折々の花で訪れる人を楽しませてくれます。また、小菅村一帯は主に四万十累帯の小仏層群で、砂岩および砂岩泥岩互層からなりたっており、急峻な地形とこの地質により、河川の浸食や崩壊現象など自然災害の起こりやすい地域となっています。

このような厳しい自然環境の中にある小菅村ですが、急峻な地形を生かしたコンニャク栽培などの農業・建築材、白炭生産などの林業など様々な産業が成り立っていました。しかし、近年の高齢化や獣害などによりこれら農林業の存続は困難となってきています。

みなさん驚かれるとは思いますが、こんな山奥の小菅村に 漁業があることをご存知ですか? 昭和40年に橋立在住の 酒井氏により日本初めてのヤマメの養殖に成功したことによ り、今では小菅村の重要な産業にまで成長し、ヤマメ・イワナ・ ニジマスを県内外に出荷しています。その味は村内民宿旅館 などで堪能することが出来ます。

人口 854 人 (平成 21 年 8 月末現在) 面積 5,265 ha (林野率:93.6%) 東京都水源林率 約 30% (1,630 ha)



多摩川源流大学

平成18年度より東京農業大学が文部科学省 の現代GP事業(現代的教育ニーズ取組支援プ ログラム)に採択されたプロジェクトです。













■住民から直接指導を受けることが出来る住民講師の制度は住民にも学生にも好評

源流大学では「源流域」、「本物」をキーワード に、本学の学生が多摩川源流域である山梨県小 菅村において農林業を中心とした様々な体験 実習を行い、それらの経験をとおして「本物」を 知り、地域再生に貢献できる人材を育成するこ とを目的としています。

近年、都市部の生活はモノや情報にあふれ、 ともすれば利便性の高い生活を手に入れたか に思えます。しかし、「食の安全」に代表される ように様々な弊害も生まれています。これらの 問題を生む一つの要因は生活者側にもあり、そ れはモノがどうやって生産されているのか、ど のように流通してくるのかを知らないという ことなのです。つまり、私達は「本物」を見たこ とや体験したことがないという問題を抱えて います。他方、「源流域」に注目してみると、そこ には農林業と深く関わりながらの生活が残っ ており、特に「本物 |を生産し維持する場として 重要な機能を有しています。これは農学を中心 に据えた教育を行う本学にとって非常に有効

な教育現場であり、学内で行われる座学ならび に実習をさらに補完することができる場であ ると考えられます。

これらのことから源流大学では学生が「源流 域」において様々な体験実習を行うことで地域 について学び、生活者の知恵を学び、それらに より自らの知識を「本物」にすることを目的と しています。

より地域に密着した教育を行うため、源流大 学では東京農業大学世田谷キャンパスと小菅 村の白沢地区にあった廃校に事務室を構え、学 生のサポートを行っています。これにより、地 域の住民と学生のコミュニュケーションがと りやすくなっています。また、本学の講師の他 に、関係団体から講師を招いたり、地域住民に 住民講師として来ていただいたりと、幅広い知 見を深められるようにしています。特に住民講 師は学生にも好評で、地域の人と実際に触れ合 うことで地域の問題や魅力を学ぶことが出来 ます。

ようこそ

源流大学展へ

学生発表ゾーン

このゾーンでは現在までに行われた、様々な学生活動について展示してあります。

学生の有志団体「源流放課後の会」 の活動報告や、成果物展示などがあり ます。

また、本年度特別講義Gコースの プロジェクトである「源流大学展展示 班」の成果発表も行われています。

源流大学ゾーン

このゾーンでは、東京農業大学が 4年前から行ってきた「多摩川源流大 学」の取り組みについて展示しており ます。

昨年度までの文部科学省現代GP事業であった時期から、今年度の取り組みまでを展示し、源流大学とは何かを知っていただくゾーンとなっております。

年表や授業風景はもちろん、授業 カリキュラムや、学生達のアンケート、 など源流大学のすべてが展示してあり ます。

成果物ゾー

このゾーンでは現在までに源流 で行った調査や論文などの展示 す。

授業で作成した成果物なども ます。



今回の展示では、源流大学の 県小菅村の豊かな自然やそこに ーである、「実際に体験し本物を 用意されています。遠い源流 を感じていただければ幸いです。 季節ごとに変化する展示にどう

ン

大学や小菅村 を行っていま

展示してあり

体験ゾーン

このゾーンでは、小菅村の農業や文化などを実際に体験する ことが出来ます。

実際に見て、触れて、体験してみることで、より、小菅村の ことを知っていただけます。このゾーンは季節により一部展示 が変更になることがございます。



小菅村紹介ゾーン

このゾーンでは源流大学のある 山梨県小菅村の情報を展示していま す。

多摩川の源流ってどんなところだろう? どんな自然があり、どんな人たちが住んでいるのだろう?といったことから、地域にはどんな動物が生息しているのか? どんな文化・歴史を持った村なのか? といったところまで、幅広く展示してあります。

このゾーンは季節により一部展示 が変更になることがございます。

歴史や活動はもちろん、源流大学がフィールドとしている山梨住まう人々の生活などが紹介されています。源流大学のモット学ぶ」をみなさんにも体験していただくために、体験型の展示もに思いをはせ、その源流が私達の生活にとても身近だということまた、展示は常設展示とその季節にあわせた季節展示となっております。ぞご期待下さい。

源流大学の活動

これまで源流大学で行われてきた特別講義では学生が「本物」に触れることができる授業を目指してカリキュラムが組まれています。

今回の展示では、実際の授業風景や成果物の 展示を中心にその活動内容を紹介しています。

源流大学では19年度からのカリキュラムの 実施に備え、モデル実習として森林体験(木材 加工・利用)、文化体験(伝統食の調理、神楽調 査)等を実施しました。また、これら実習に参加 した学生からのアンケート結果等を基に実習 検討委員会により、カリキュラムの改良に努め ました。19年度の事業では3年連続カリキュ ラムとして構成しました。そのための初年度の カリキュラムとして「源流体験基礎コース」(以 下、「基礎コース」)を設置した。基礎コースは 座学6回、体験実習4回で構成されており、座学 では本学教員及び学外講師により多摩川源流 域の自然、生活、文化等について講義を行い、学 生に源流域(地域)に対する基本的な知識を備 えさせました。また、体験実習では座学で学ん だ知識を実習を通して確認することを目的と し、1泊2日の行程で「景観体験」、「農業体験」、 「森林体験」、「源流体験」をテーマに実習を行い ました。3年目である20年度のカリキュラム では2年目として「基礎コース」を修了した学生 を対象に上級専門コースとして「農業コース」 と「林業コース」を設置しました。これらのコー スではより専門的な知識を学び体験するため に設置されており、農業コースでは小菅村の特



■産業だけではなく伝統料理などの文化を学ぶことも



■地域の魅力を発見する授業。学生達の目線で魅力を発掘する

産物でもある「そば」について畑の開墾から植え付け育成、収穫、加工までの一連の体験を行いました。林業コースでは森林所有者を招き森林の育成に関する意向等を聞き取った後、森林内を調査し管理の計画を作成するというカリキュラムを作成しました。また「基礎コース」では、プログラムの初日に1グループ4~5名で班分けをし、住民講師宅で農家体験を行うというプログラムを行いました。これにより学生と住民講師との間で緊密にコミュニケーションが図られ、より深い体験ができるようになりました。

21年度は「基礎コース」とそれまでに源流大学の授業を受講した学生による「応用コース」の2コースにわけ、応用コースでは村の課題を自分達で設定し解決するためのプロジェクトを行っています。その中には、村の魅力を伝える「小菅村展示プロジェクト」や村の新しい料理を開発する「料理開発プロジェクト」などユニークなものもあります。このような学生達のがんばりのおかげで、学生達が小菅村のことを真剣に考え、それに村が応えてくれるという理想的な関係が構築されつつあります。



■学び舎である白沢地区の源流大学校舎

源流大学の展開

源流大学では、授業以外にも様々な取組みを行ってきました。また、それらで得られた様々な立場からの意見が、今後の源流大学をつくる原動力となっています。また、学生の中には小菅村のファンになり有志で活動している人たちもいます。

今回の展示では、源流大学が行ってきた学生 の活躍や今後の展開についてご紹介します。



■村の鉄砲ぶちと歩くコースは多くの人の関心を集めた

源流大学では学生に向けた授業以外にも 様々な活動を行ってきました。その中のひとつ として、エクステンションセンターでの環境体 験学習講座の活動が挙げられます。環境体験学 習講座とは東京農業大学エクステンションセ ンターが行っている、学生・一般向けの教養講 座です。源流大学でも19年度から講座を開講 しています。源流大学の講座を一般の方にも体 験していただく、「源流文化体験」や小菅村の食 文化を学ぶための「食講座」、村の鉄砲ぶち(猟 師)と一緒に山を歩く「猟講座」、親子で参加し、 小菅村の自然に触れることが出来る「親子キャ ンプ」など様々な講座を開講しています。一般 の方に源流大学の講座を体験していただくこ とで、体験実習の際に学生、社会人、現地住民と 様々な立場の方が参加することで意見交換に 多様性が生まれ、より深い学習の機会を得るこ とが出来ました。また、多くの人に源流大学の 取組みを知ってもらうことで、その意義が理解 され、また、小菅村の現状を知ってもらう一因

となっています。

このような活動を行ってきて、うれしい成果 があります。それは、授業を受けた学生達から 構成される学生有志団体が活動を行っている ことです。彼らは、授業とは別に小菅村を訪れ、 小菅村に35年ぶりの田んぼを復活させたり、 麦を栽培したり、畑を作ったりと活動していま す。このことは、小菅村の村民にも大きな影響 を与え、明るい話題を提供することとなりまし た。現在も活動は続けられており、小菅村での 活動はもちろんですが、小菅村のこと、源流大 学のことを多くの人に知ってもらおうと、東京 農業大学の収穫祭などのイベントへの参加な どの活動も行っています。まさにこれは源流大 学の目指す「本物を知り、体験し、地域から知恵 を学ぶ」という考えを体現しています。このよ うな学生が少しずつでも増えていけば、小菅村 に限らず全国でこれからの地域活性化を担う 人材となって増えていくのではないかと期待 しています。



イベント案内

1. 子供源流体験会

日 時:2009年11月7日(土) 10:00~15:00

内容:木工体験・丸太切りなどに参加して源流大学生になろう!

申込不要:自由参加(随時受付)

2. 源流大学フォーラム

日 時:2009年12月12日(土) 10:00~17:00 (午前中/朝市、午後/フォーラム)

内容:源流大学展のまとめとして、源流大学フォーラムを開催します。

3.年越しそば打ち体験

日 時:2009年12月13日(日) 11:00~14:00

内容:源流域の食体験としてそば打ちを行います。参加者にはそば粉をプレゼントいたします。

参加費:1,000円、定 員:20名

申込み:東京農業大学GP事務室03-5477-2247、gpjimu@nodai.ac.jp

4. 郷土食試食体験会

日 時:2010年1月17日(日) 11:00~14:00

内容:小菅村の郷土料理をつくります。また、村で食べられているおばく、こんにゃく、わさびづけ などを試食します。

参加費:1.000円、定員:20名

申込み:東京農業大学GP事務室03-5477-2247、gpjimu@nodai.ac.jp

5. きおび、竹かご編み体験

日 時:2010年2月13日(土) 11:00~14:00

内容:交流体験として、小菅村ゆうゆうクラブの方を講師にお招きして簡単なきおび体験、竹かご 編みの実演などを行います。

参加費:1,000円、定 員:20名

申込み:東京農業大学GP事務室03-5477-2247、gpjimu@nodai.ac.jp

6. 源流大学フェスタ

日 時:2010年2月27日(土) 11:00~15:00

内容:源流大学で活動している学生によるイベントデー。農作業体験、染物体験などを行います。 詳細、後日公開(博物館ホームページ)

期間中特別イベント

農大朝市

日 時:月一回開催

内 容:農大内で活動している団体で、農村景観、地域振興などを目的に地域で農産物などを生産し ている団体と連携して、朝市を行います。

場 所:1 F映像コーナー

朝市予定日(予告なく変更になる場合があります)

2009年11月7日/11月21日/12月12日

2010年1月17日/2月13日/2月27日

企画・制作 東京農業大学学習支援課 GP 事務室

2009.10.15.5000



PRINTED WITH SOYINK ... この印刷物は再生紙を使用しております。